

第2回伊予市図書館、文化ホール等管理運営検討委員会 議事録

日 時：平成26年9月24日（水） 13時59分～16時35分

場 所：伊予市教育委員会事務局 会議室

参加者：検討委員会委員13名、事務局5名、関係者4名、委託業者2名

1 開会

2 議事

(1) 基本計画における文化ホール機能の考え方について

- ・ 基本計画の該当箇所の説明(事務局)

(2) 文化ホールの事業方針について

①伊予市で実施されている(た)事業について

- ・ 資料1(最終ページ以外)についての説明(事務局)
- ・ 前回、これまでの事業を知りたいというご意見があったため、ご説明いただいた。何か質問等がありますか。(委員長)
- ・ まず、電算機能の拡張と図書館の蔵書数と年間の購入冊数が知りたい。次に文化振興について、説明のとおりたくさん埋蔵文化財があるが、新しい施設では展示ができないのではないかと。3つめは公民館郡中地区公民館の事業だけでなく、他に貸館もある。年間どの程度あったか。4つめは市民会館について、これだけの催しがあるが、ホールだけでなく、他の部屋で行うものもあるのではないかと。(委員)

→まず図書館について。毎年4,000冊の購入計画があり、蔵書は88,000冊。新図書館は12万冊なので、新たに購入していくことになる。予算のことはこれからになるが、蔵書計画の策定にあたっては市民や学校の司書の先生などにご協力いただき、実施しようと考えている。電算については、現在タグで管理しているが、基本的にはこのままいく予定。機能の拡張については今後検討する。

埋蔵文化財については、確かに多く存在する。古文書・自然科学のものなど、平成20年度から収集を続け、ひとつひとつの箱にタグをつけて整理している。展示についてのご意見だったが、その前にまず、保存場所の確保を優先してほしいと思っている。保存庫については空調・湿度管理を行う。そして展示となるが、常設展示については、変わり映えがしないので、市民の皆さんもそれほど望んでいられない。職員が少ないこともあるので、展示スペースについては、常に入れ替える小さな展示場所を設けていただくことをお願いしたい。それでもまだ施設に余裕があれば、常設展示の場ということも検討する。新施設の2階にギャラリースペースというところがあり、壁面に展示するケースを設けて展示できればと考えている。また、新庁舎にも展示場所を設けていただく予定。現在、図書館の3階に展示場所があるが、引っ越しの関係もあって展示できていない。

公民館の貸館については、手元にすぐ資料があるわけではないが、基本計画に記された平成23年度の稼働率から大きな変動はない。

4 つめの市民会館の催しについては、資料の上部にある「会議」とある催しについては会議室中心であったのではないかと推察される。その他の催しはホールで行われたと思われる。(事務局)
→現在の伊予市になる際の合併協議書に文化財の施設を作る、と書いてある。いつになるかわからないが、その趣旨を踏襲してほしい。(委員)

→この施設だけでどこまで解決できるか、ということはあるが、不足する分については市全体での検討としていただきたい。(委員長)

- この資料は、ここの図書館のものだが、双海の図書室では読みかたり隊の活動があったり、移動図書館、展示の記録といった取り組みもある。図書館を支えている活動もあることを把握していただきたい。(委員)

→他の施設についても同様のことが言えるのではないかと。(委員長)

- 1ページ目にある小学校の社会科見学、中学の職場体験というのは、何件ぐらいあるのか。(委員)
→小学校については年3件、伊予小、郡中小が主で、中山が毎年、双海があつたりなかつたりである。中学校の職場体験については、港南中と伊予中が来るので年2回。9月～10月ごろ来られる。他に学生のインターンの受け入れも年1回程度行っている。(事務局)

②先進地の取組みについて

- 資料1の最終ページ、内子座の利用内容についての説明(委員長)
- 大きなものとしては8月下旬に国立劇場と連携した文楽。450席の4ステージ行われるが、ほとんど満席となる。そのほかに演劇も年1回は行っている。実は内子座はほとんど貸館。事業をする場合には、町が主催するのではなくて実行委員会をつくり、その中に内子町も入っているという体制となっている。もとは民間設置の施設であり、民間の興行会社が盛んに利用していたところがあるため、内子町が単独で開催するのは小学校学芸会といったものぐらいである。平成24年度からは狂言にも取り組んでいるが、これは最初は地元の病院が招聘されたのを実行委員会で引き継いでいるもの。文楽については来場者の80%が町外であるため、チケットも半年前から売ったり、前年の購入者にお手紙を差し上げたりといった方法をとっている。反対に狂言は80%が町内からの来場であるため、町内中心の広報を行っている。職員は専属ではない2名の方がおり、うち1名がものすごく熱心。昨年度からは人材育成の補助金をとり、3年間かけて子どもたちと新作狂言を作る取り組みを行っている。これには3分の2の補助がでるが、そうはいつでも3分の1は内子座の負担となる。(委員長)
- たしか内子太鼓といったか、以前は熱心にやっていたが現在は停滞していると聞く。内子座を使って、舞台をする人の育成を立ち上げているようなので、我々も人材育成をしていかないと活かせない。(委員)
→いま演劇大学というのを5日間にわたって行っている。岡山、東京からもいらしていただいている。「すごく大変だけれど、やるといいよね」ということに対する町長の理解、町民の参加、商店会の協力があってできている。(委員長)
- 砥部町の文化会館では、会館を支えましょうということで一般1,000円、企業5,000円の支援組織を作られているようだ。(委員)
→会費1,000円の友の会は、たぶん赤字だろうと思われる。2,000円～3,000円は頂かないと採算が合わない。採算を考えるよりも、参加を促す機会として設けていच्छやるのではないかと。(委員)

員長)

- 町民等の参加というのは、どのくらい参加されているのか。(委員)
→20 人ぐらい。半分は役場の職員が休日に報酬なしで参加している。どうしても採算は合わないので、そういう方が増えるとありがたい。ただ文楽については補助金を頂いているので、できるだけ採算を合わせることを考えている。(委員長)
- 演劇大学を招聘するなどされているが、平田オリザさんのアーティストインレジデンスのような活動がされているのは、どのようにやられているのか。(委員)
→我々が企画したのではなく、文化庁の「大学から文化力」という助成を四国学院大学さんがとられて、平田オリザさんの芝居を弟子の西村さんが演出するという取り組みを 4 施設連携で行っている。さまざまな助成があり、茅野ではインドネシアでダンスオペラを作るといった取り組みも行っている。こういったことは、会館に舞台技術のスタッフがいるからできる。平田オリザさんの件については、我々は申請時にお手伝いをしたことと、学生を地元の宿で受け入れることぐらい。宿泊先は 1 週間押さえており、その代金については、内子町が負担している。(委員長)
- 内子が変わったきっかけは何か。(委員)
→私も全て知るわけではないが、30 年前のまちなみ保存運動ではないか。いろいろな方が苦労された。テンションが下がった時期もあったが、持ち直した。伊予も数年では変わらないと思う。また、代替わりというのは大変難しい問題。(委員長)
- 昔は民間で隠れていたような、例えば大森さんの朗読を掘り起こすなど、いろんな取り組みでの力添えは大切だと思う。(委員)
→とはいえ反対派も多く、大変であったと聞いている。(委員長)
- 世界的なアーティストなどの企画制作のためのフィルムコミッション的な団体ができて、いろいろな分野に働きかけるのはどうか。(委員)
→単なるサポーターではなく、運営に関わってはどうかというご提案だろうか。そういった仕組みを行政が作るのは簡単だが、維持していくのは市民であり、市民ができるかどうかによる。(委員長)
- 文化協会もここ 2 年ぐらい、いろいろなフォーラムを行っている。どういう事業をするかというのは大切である。運営主体をどうするかというのも大切だが、とくに運営委員会といったものをどう考えるか。市民、行政、全国的視野を持つ専門家が関わる必要がある。また、伊予市にふさわしい事業のための企画委員会についてもどうするか。いろいろなジャンルから知恵を出す仕組みが必要。それから友の会、長久手市文化の家では「フレンズ」と言っているが、約 600 名の会員、一人 2,500 円ぐらいの会費で、ボランティア活動や事業について毎月会議している。市がどこまでやるのか、他はどうするのか。市が全部やるのは到底無理。文化協会は現在 1,500 人会員がいるが、年会費はわずか 250 円。実際にサークル活動をされている方は、衣裳代などの活動費の負担もあるが、新しい施設で友の会を作る場合にはそれでは無理だろう。2,500 円出しても集まるようにしたい。(委員)

③市民ワークショップでの意見について

- 資料 2 及び第 4 回ワークショップのまとめ資料についての説明(事務局)
- ワークショップの問題点が 3 つあると私は思っている。1 つめは、ホール、図書館、「郡中公民館」であって、「中央公民館」ではないことをはっきりすべきということ。2 つめは、400 席を 600 席にという意見や、リハーサルルームにピアノがほしい、2,000 万以上するピアノがほしいといった意見が出され

ているが、大変な費用がかかる。誰が負担するのか。夢を膨らますのはいいが、実際どの程度実現するのか、また維持管理費をどう考えるのか。一方、公民館の多目的スペースは現施設より小さいが、バレーボールや卓球もできるのか。会議室は現施設では3室あるのに1室しかなくなっている。文化ホール中心で、公民館は二の次になっていないか。公民館の事務室も体育倉庫もない。3つめは、この公民館は震災時の避難場所になる。そう考えたときに備蓄庫はどうするのか。ワークショップでもこういう問題については発言しているが、今後どうするのか。(委員)

→維持管理費ということについては、受益者負担の問題と密接に関係することかと思う。(委員長)

→維持管理経費の問題はまた議論するとして、ワークショップではホール形式についてどうするかという話をしている。基本計画ではプロセニウムであったが、自分たちの活動にふさわしい形式は何かということになった。しかしジャンルによっても求めるものが異なる。前々回、1回目の協議ではプロセニウム形式とスタジオ形式が拮抗した。前回、2回目に設計者から折衷案のようなものが出された。基本的にはプロセニウム形式に近く、ステージを有効活用するという説明。話が詰まっていく一方、フライタワーも吊物も皆さんわからない。近隣でいいので、いくつか現場を見学し、そこで話をしてみたい。前回のドリームスケジュールについても、自分たちが経験しているものしか出てこないの、鑑賞と発表に偏ってしまう。多目的スペースやリハーサルルームをどう使うか。ホールだけでない検討が必要。ホール、先ほどの毛利委員のご意見についてだが、図書館、公民館それぞれ法的な根拠を有する。その法令に示された公民館の役割を果たしていないとなれば改善すべきだが、そうでなければもう少し大きな捉え方をしてもいいのではないか。(委員2)

→郡中公民館、中央公民館それぞれについての認識があるのか。避難場所になるかどうかを知りたい。(委員)

→郡中、中央という分け方が先にくるのではなく、事業によって郡中地区としてすべきもの、中央ですべきものに分けるべきだと考えている。(事務局)

→避難所の話については、現在中央公民館は避難場所であるので、新しい施設も引き続いて避難所に指定される予定ではある。(委員3(行政職))

→現在では公民館の名前は中央公民館で、郡中地区公民館ではないことを皆さんに認知していただきたい。人口の約半分と多いのだから、公民館がないのはおかしい。(委員)

→それは公民館ワークショップでお願いしたい。そのあとまた検討委員会で議論する。(事務局)

④自主事業と貸館事業について

⑤文化ホールの事業方針について

- ・ 手元資料及びパワーポイントにて、自主事業と貸館事業の違い、近年の劇場・ホールを取り巻く状況、ワークショップの意見まとめ、文化ホールの事業分類案、事業方針検討ポイントについて説明(委託業者)
- ・ リハーサルルームがなければ文化ホールの利用率が落ちるのか。必要だというのはわかるが、なくてもホールの利用率が変わらないのであれば、いらぬのではないか。(委員)

→利用率と利用回数という2つの見方がある。ホールとリハーサルルームで600回ある利用が別々に使われる場合には、利用率が下がる。ただし、同時に使わなくてはならないとなると、利用回数が倍となる。一番良いリハーサルはホールでリハーサルすることだが、問題はホールの料金。利

用料金の設定に工夫をいれ、リハーサル利用も可能となると、利用率が高くなる。(委託業者)

→松山では、リハーサルルームの予約がとれない。土日はすべてうまっている。キャメリアホールもうる。そうすると、坊っちゃんスタジアムの下の階にあるところに行かざるを得ない。そこも取れないことがある。リハーサルルームの利用が多くなれば、時間をかけてホール利用が増えていくということにつながると思う。(委員長)

- それならばスタジオ1・2とホワイエはどうか。(委員)

→ホワイエはホールに入る方の安全管理上大切な場所。スタジオ1・2はリハーサルルームの小さいものとお考えいただきたい。とくに若い人が使いやすい。松山も不足しているので、松山からも借りに来ると思う。(委員長)

→市外の人のための施設ではない。(委員)

→市民ももちろん使うし、さらに市外からも借りにくるということ。つまり利用料金収入を得やすい。(委員長)

→私たちの太鼓の団体は稽古を年間160日くらいやっている。太鼓以外にも三味線等の稽古も必要。リハーサルルームで子どもたちに太鼓の練習をさせておいて、スタジオで大人の奏者が練習するといった使い方ができる。(委員2)

→スタジオの要望は高い。若い人がバンド活動をやる場所がない。また、学校では授業でダンスに取り組んだりしている。表現活動が広がってくれば、こういう施設は不可欠になる。(委員3)

→バンド等といわれるが、図書館と隣接しているのに音は大丈夫なのか。(委員)

→遮音されているし、スタジオに接しているのは、図書館でも声を出していい子どものためのゾーン。静かに読み物をしたいいエリアからは大きく離れている。(委託業者)

- リハーサルルームの話など、いろいろ思いは出てくるが、分かりにくい。ちょっと類似施設が見学できるとありがたい。(委員)

→小田のスパルホールは音楽ホールだが、現在トップクラスの技術の方を招いて技術講習をやっている。町外の方も参加できる。次回は10月18日。朝から晩まで、お弁当持参となるが、ご興味があればご参加いただきたい。(委員長)

- 2階に調理室がある。いまパン作りをやっているが、この部屋への設備・備品の要望はどこで行えばいいか。(委員)

→基本設計の市民ワークショップを行っている。そこにご参加いただいて、ご要望を出していただきたい。(委員長)

- 「文化ホール、図書館等」の「等」が公民館ということか。今日はホールについての協議ということだが、公民館の話をしたい。私たちは大集会室で健康体操を行っており、120人の会員がいる。毎週月曜、毎回100人は参加している。新しい施設でも健康管理のための活動は必要だが、この多目的スペースはどこまで使えるのか。基本計画の「公民館機能の目指す方向」にて、多目的スペースは「会議室では収容できない規模の集会やレクリエーション、軽スポーツなどが可能なホール」と書かれていて、収納等々も書かれている。このとおりに行かないとは思いますが、全体としてバランスを考えないといけない。(委員)

→どちらかというところ、庁舎建設課の分野なので、ワークショップでご意見いただきたい。図面について何かを議論する権限は、この委員会にはない。3施設の一体運営については、一方で各施設の専門性もあることから、まずはそれぞれを検討して、またまとめる回を行う。(委員長)

- ・ スタジオ、リハーサルルームの必要性については理解した。しかし、ホールの必要な面積は満たしているのに公民館は満たしていない。現施設の分は確保してもらわないと困る。(委員)

→ 一体運用なので、ここが公民館、ここがホールということではないのではないか。(委員長)

→ 一体運用で考えると、公民館だけ要件を満たしていない。リハーサルルームやスタジオの必要性は理解したが、偏ってはいけないので、公民館の面積も確保してもらいたい。(委員)

→ スタジオ、リハーサルルームも公民館として一体運営となると、貸出のことで考えた時に、貸出の窓口はどうしていくか、もう少し先に課題として考えないといけなくなると思う。(委員長)

→ 今後、ワークショップで公民館も議題に出していくが、スタジオ、リハーサルルームといった施設については一体運営していくか、別々に運営するか、それを別としても部屋が足りるか、足りないかという議論はワークショップで行っていく。(関係者)

→ 一体の施設であるので、1階がホールと図書館です、2階が公民館です、ということではない。空いている部屋はどこが使ってもいい。リハーサルルームが公民館の会議で使われることも、図書館の読み聞かせで使われることもある。そのように柔軟に貸し出せるシステムをここでご検討いただきたい。逆に言えば2階を図書館の事業で使うこともあるだろう。(事務局)
- ・ 時間が迫っているので、先ほどの説明に関する意見について話をしたい。自主事業については、概ね網羅してもらっていると思う。「ふるさと保存事業」という名前については再考の余地があるかもしれないが、趣旨には賛同する。また、普及事業と育成事業を分け、普及事業にアウトリーチを例として挙げているが、アウトリーチには育成的な面もある。そして、ここに書かれていることすべてが並立でなく、時間軸で捉え、中長期展開を図る必要があるだろう。開館時に解決すること、5年後・10年後の解決を目指すことといったように取り組みたい。また、自主事業については特に人的な課題が多い。どういった条件が必要か、例示などをしてもらえると分かりやすい。(委員)

→ 方針とともに10年間ぐらいのスケジュールを示した方がいいだろう。(委員長)
- ・ 複合施設といっても、文化ホールと公民館では料金体系が違う。文化ホールの施設を公民館で使うといっても、料金体系が違って高額になる。一体的に使うことは構わないが、「ここは文化ホールの料金体系」「ここは公民館の料金体系」というように分けてもらわなくてはならない。(委員)
- ・ 利用料金については、この管理運営検討会の今後の課題の一つとして、じっくり時間をかけて議論するほうが良い。(委員長)
- ・ 将来的に市民が参加・交流することを中心とし、子どもが中心となって活動できたらいいと思う。一方で高齢者を切り捨てるようなことはできない。そのあたりは悩ましいが、何をするにしても、新しい施設でやっていくには、覚悟がいるなと思った。(委員)
- ・ 「覚悟がいる」というお言葉は本当にそのとおりであって、最後にうまくまとめていただいた。今回も予定時間を35分もオーバーしてしまって申し訳ない。議論がないよりはいいことかなと思う。次回以降もよろしくお願ひしたい。(委員長)

【閉会】